

【入賞】体育会スポーツクライミング部が躍進 吉田智音（国際学部2年）がIFSCクライミングアジア選手権 2024で銅メダル

～SAGA2024国民スポーツ大会でも同部員3人が上位入賞～

摂南大学（学長：久保康之）の体育会スポーツクライミング部に所属する吉田智音（よしだ さとね）選手が、「IFSCクライミングアジア選手権2024」のリード部門（男子）で銅メダルを獲得しました。また、「SAGA2024国民スポーツ大会スポーツクライミング競技（以下、国スポ）」でも、同部員の抜井亮瑛（ぬくい りょうえい）選手、小林舞（こばやし まい）選手、小田穂香（おだ ほのか）選手の3人が各都道府県代表として出場。いずれも個人・団体ともに上位入賞し、さまざまなフィールドで活躍しています。

【本件のポイント】

- 体育会スポーツクライミング部員が国際大会および国内大会で躍進
- 吉田智音選手が「IFSCクライミングアジア選手権2024」のリード部門（男子）で銅メダル（3位入賞）を獲得
- 同部員の抜井亮瑛選手、小林舞選手、小田穂香選手が「国スポ」で個人・団体ともに上位入賞



（写真左から）吉田智音選手（右端）の表彰と競技中の様子

■吉田智音 選手（国際学部2年） コメント

この度、アジア選手権で銅メダルを獲得することができました。アジア選手権は2年前の前回大会にも出場しましたが、ボルダリングで4位、リードで5位と、表彰台を逃していました。最近はワールドカップで決勝進出率が下がっていることが課題だったので、表彰台に上がることができ、大変うれしく思います。

今回のアジア選手権での経験を生かし、来年の世界選手権に向けて更にトレーニングに励みます。弱点克服のため、特にリードに関してはオリンピックを視野に入れた課題認識を持って取り組んでいきます。



■SAGA 2024 国民スポーツ大会スポーツクライミング競技 結果

- ・ 抜井亮瑛選手（国際学部3年）／ 奈良県代表
ボルダー 5位（個人5位）
リード 3位（個人4位）
- ・ 小林舞選手（農学部2年）／ 三重県代表
リード 4位（個人1位）
- ・ 小田穂香選手（国際学部1年）／ 大阪府代表
リード 2位（個人5位）



表彰式終了後の記念写真
（写真左から小田選手、抜井選手、小林選手）

■抜井亮瑛 選手（奈良県代表） コメント

2年ぶりの国スポ出場となりました。前は思うような結果が出なかったこともあり、今回は何としても入賞したいという思いがありました。また、この1年間はボルダーに専念して練習してきたので、それを結果につなげたいという目標がありました。ボルダーでは予選、決勝ともに100%満足のいく内容とはなりませんでした。5位入賞することができ、この1年の練習は間違っていなかったと感じました。リードでは、ボルダーに専念して練習していた分、自身の練習不足を感じていましたが、相方がリード専門の選手ということもあり、なんとか3位で表彰台に上がることができました。来年以降の大会では、両種目において、更に自身のレベルアップを図り、優勝を狙いたいです。

■小林舞 選手（三重県代表/2024リードW杯日本代表） コメント

ボルダー、リードともに決勝に進出して表彰台に上がることを目標に本大会に挑みました。結果はボルダーが14位と目標を達成することはできませんでしたが、リードでは4位と昨年よりも順位を上げることができました。また、今年はリードに専念した1年であったこともあり、予選では完登を達成し、決勝では最高高度まで登り個人1位になれたことは日々の練習の成果が出たと感じました。来年は地方予選から国スポに出場できるのは1県だけなので、まずは地方予選を勝ち抜いて次回も国スポに出場し、来年こそは両種目で表彰台に上がります。

■小田穂香 選手（大阪府代表） コメント

大阪府代表として国スポに出場し、トップ5に入賞しました。リードでは優勝を目指して頑張りましたが、2位という悔しい結果に終わりました。国スポには3回目の出場となりますが、成年女子の部に初めて出場し、年齢層の広さが刺激になりました。悔しさをバネに、今回は優勝を目指し、日々の練習に励んでいきます。

■摂南大学 体育会スポーツクライミング部とは

摂南大学では2022年4月に、関西におけるスポーツクライミングの普及と強化を担うことを視野に入れ、スポーツクライミング部を発足しました。ヘッドコーチにリード部門でW杯出場を経験し、現在日本代表チームのコーチを務める中貝次郎氏を迎え、高みを目指して壁に挑んでいます。

2024年2月末、寝屋川キャンパスに高さ12.5m、全幅9.5mのクライミングウォール（リード）が完成。練習環境の充実とともに、今後の同部の活躍が期待されます。



